

特別講演 1

「CGM データに基づいた糖尿病治療の新しい流れ

～DPP4 阻害剤週 1 回製剤への期待～

東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 准教授

西村 理明 先生

近年、糖尿病患者において 24 時間連続して血糖値を測定できる持続血糖モニター (Continuous Glucose Monitoring : 以下 CGM) の使用が注目を集めている。

CGM が示すさまざまな血糖変動のパターンを見て感じるのは、糖尿病患者における血糖変動のパターンにはおそらく個人差があること、そして、このパターンを見ながら食事・運動療法のみならず薬物療法を含めた適切な治療法を選択する、いわゆるテーラーメイド医療を実践することが、究極の血糖コントロールをもたらすことにつながるのではないかということである。

昨今、DPP4 阻害薬に、アドヒアランス向上につながる週 1 回製剤が登場し、CGM により 1 週間にわたり血糖変動が制御されているか否かについても評価することが可能となった。

今後、より簡便な CGM 機器が普及することにより、低血糖を起こすことなく血糖変動幅を狭めることが可能となり、よりよい血糖コントロールを達成できる患者数が増加するであろう。